

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	21	学校名	静岡県立沼津工業高等学校 (定時制)	校長名	鈴木 広隆
------	----	-----	-----------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
------	------	------	----	-------

ア	安心安全な学校づくりの推進。	・交通安全に気を付けていると答える生徒90%以上	交通事故に気を付けていると答えた生徒100%	A	交通安全教育（年2回）の内容検討、日頃の注意喚起を徹底する。
		・重大な交通事故件数ゼロ	プライベート上での事故であったが手術、入院に至ってしまったケースが1件		
		・防災意識を高め安全について自主的に考え行動できると答える生徒90%以上	防災意識を高め、安全について自主的に考え、行動できるようにしていると答えた生徒87.0%	B	学校危機管理マニュアルの点検、避難訓練の内容検討、日頃の注意喚起を徹底する。
		・工業実習での重大な事故件数ゼロ	実習時の生徒の重大な事故発生は”0”で過ごすことができた	A	事故ゼロについては、今後も継続していくよう心掛ける。
イ	規範意識や人権意識等の醸成。	・本校は組織的に多様な生徒に対応していると答える教職員80%以上	思う、まあ思うと答えた教職員100%	A	多様な生徒に対応した指導が出来ていた場面もあるが、組織的な指導体制の確立までは至らなかった。組織的な指導を実践できる体制の確立を目指す。
		・学校行事や生徒会活動、部活動に主体的に参加していると答える生徒80%以上	学校行事や生徒会活動、部活動に主体的に活動していると答えた生徒82.6%	A	目標に達成したが、1人の教員に業務が集中しないよう、注意を払っていく。
		・挨拶がしっかりできていると答える生徒100%	普段から挨拶ができていると答えた生徒95.7%		挨拶についてはホームルームや授業を活用し、挨拶の重要性を指導していく。また、教職員も挨拶のお手本を示す。

		<p>・他人に対して思いやりを持って行動していると答える生徒 80%以上</p> <p>・本校に入学して良かったと答える生徒 80%以上</p> <p>・学校生活に満足していると答える生徒 80%以上</p>	<p>他人に対して思いやりを持って行動していると答えた生徒 100%</p> <p>思う、少し思うと答えた生徒 100%</p> <p>学校生活に満足していると答えた生徒 87.0%</p>		<p>HR、集会等を利用した情操教育の推進に努めていく。</p> <p>今後も定時制及び工業科の魅力を伝え、生徒一人一人に対して手厚い指導を心掛けていく。</p> <p>9割近くの生徒が満足していると答えたが、日頃の生徒観察や生活アンケートの様子を見て積極的な声掛けを行っていく。</p>
ウ	基本的な生活習慣の確立。	<p>・生徒の成長を促す生活指導や生徒観察と声掛けができていると答える教職員 100%</p> <p>・時と場に応じた行動をとるように気をつけていると答える生徒 80%以上</p>	<p>生徒の成長を促す生活指導や生徒観察と声掛けができていると答えた教職員 85.7%。</p> <p>時と場に応じた行動をとるように気をつけていると答えた生徒 91.3%</p>	B	<p>多くの教員が実践できている一方で目標には至らなかった。教職員間での声掛けを積極的に行うことで100%を目指していく。</p> <p>目標には達成したが、社会に出た際に困ることが無いようにHRや集会等を通して注意を促していく。</p> <p>数値目標は達成できたが、学習関係アンケート調査での「授業中、私語をしないで、先生の話をよく聞いている」に対しては6月：50%、12月：43.5%のため、今後は授業態度に関する数値目標の追加が必要。</p>
		<p>・出席率 90%以上</p>	<p>全学年の出席率は 90.2%</p>	A	<p>学年によって、出席率のバラツキが見られた。特に1年生と4年生は90%以上であった。</p> <p>全学年が90%以上になるように学校の魅力やものづくりの楽しさを伝えていく。</p>

エ	学習内容の定着により進路希望の実現。	<p>・多様な生徒に対する指導法を研究・実践していると答える教職員100%</p>	<p>特別支援教育に関する職員研修の実施を行った。 多様な生徒に対する指導法を研究・実践していると答えた教職員69.2%</p>	B	<p>生徒の個性や特性についての理解を職員間で共有しながら、指導につなげることができた。 発達障害や特別支援に関する研修を継続していく。 学年別学習支援の効果の検証と方法・内容の検討をする。</p>
		<p>・ICTを効果的に活用して「理解が進む」「楽しい」「活力のある」授業を実践していると答える教職員100%</p>	<p>授業でICT機器を「毎回活用していた」「時々活用していた」教員100%</p>	B	<p>教員のICT機器の利用に対する意識向上により、授業で活用する教員100%を達成することができた。 教員が捉えるICTの効果として、教員目線のものの数値が高い。「生徒が主体的に取り組む」や「生徒の思考力を深める」等の数値を高めていくために、生徒がICT機器を活用する場面を増やせるよう、教員間で情報共有を図る。</p>
		<p>・授業に満足していると答える生徒80%以上</p>	<p>「授業に満足している」と答えた生徒86.4%（6月）、91.3%（12月）</p>		<p>「発達指導的な生徒指導」についての全体研修等を踏まえ、教員の生徒一人ひとりに適した指導の実践により、数値目標はおおむね達成した。</p>
		<p>・「授業が理解できた」と答える生徒90%以上</p>	<p>「授業が理解できている」と答えた生徒81.8%（6月）、78.2%（12月）</p>		<p>生徒の授業理解度向上のため、授業の振り返りや自己評価を中心とした実践例の情報共有を教員間で行う。</p>
<p>・資格・検定試験に挑戦したと答える生徒80%以上</p>	<p>資格・検定試験に挑戦したと答えた生徒65.2%</p>	<p>生徒が複数の資格を取得して卒業していけるよう、取り組んでいく。また、全学年において資格・検定試験に挑戦できるよう工業科で検討を行う。</p>			

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> 外部人材の活用（3回以上） 進路決定率100% 3年次終了までに進路が明確になっている生徒80%以上 	<p>外部人材の活用は目標達成 進路職業講座 工場見学 進路がダンス</p> <p>進路決定率は12月時点では80%</p> <p>3年次までの進路が明確になっている生徒100%</p>	A	<p>キャリア教育に関連して3回の外部人材の活用は実践できた。</p> <p>昨年度に比べ、就職希望者すべてが9月16日以降の試験に受験することができた。1次試験で内定を得られなかった生徒が2名、そのうち1名は現在も未内定。</p> <p>3年生の進路については、4月当初より進路変更した生徒がいたものの12月末の時点では、明確になった。 1、2年生についても計画的に職業観や就業意識の育成に取り組んでいく。</p>
オ	地域社会に根ざした産業教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域の外部人材の活用（2回以上） 地域と連携したボランティア活動に参加したと答える生徒80%以上 	<p>地域の外部人材の活用は目標達成</p> <p>地域等のボランティア活動に参加したと答えた生徒21.7%</p>	C	<p>エの外部人材の活用と重複する部分があった。来年度は、極力重複しないような地域の外部人材の活用を目指す。</p> <p>ボランティア活動への参加が少ないことは毎年の課題となっている。様々な案内に関する周知方法や生徒が主体的に参加できる情操教育の推進等、検討を行っていく必要がある。</p>
カ	業務改善の推進による持続可能な学校運営体制の構築。	<ul style="list-style-type: none"> 業務の精選・改善に取り組んだと答える教職員100% 	<p>業務の精選・改善に取り組んだと答えた教職員69.2%</p>	B	<p>分掌間で連携を図り、学校行事の精選を進めることができた。分掌内では、業務の明確化を行うとともに、方法について担当者の裁量に委ねることで業務の改善につなげていく。</p>
キ	教育予算の適正で効果的な執行による、学習環境の改善と充実。	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備・備品の整備・充実により、安心して教育活動が行えると答える教職員80%以上 	<p>施設・設備・備品の整備・充実により、安心して教育活動が行えたと答えた教職員61.5%</p>	B	<p>学校経営予算等が毎年減少している中、事業内容を見直す等、効果的な執行に努めていく。 ロッカー等の転倒防止を事務に依頼して固定金具を設置していただいた。</p>